



海峡の英知。未来へ そして世界へ。

公立大学法人

下関市立大学

Shimonoseki City University

2009年3月1日 第57号

発行:下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町 2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

下関市立大学広報

現代GP活動報告 ～松浦党の里ほんなもん体験～

教授 吉津直樹

吉津ゼミでは数年前から都市農村交流をゼミのテーマとして実地調査・研修を行ってきた。今年からは、現代GPも関連して観光・交流グループとして動いている。我々の狙いは学生諸君に現場を体験し農山漁村の生の姿に触れてもらうこと、そしてそこに住む人達がどのようにして自らの住む地域を元気づけようとしているかを感じること、そして、学生各自が自らの課題として共に考え、行動することによって若いエネルギーを地域に注ぎ込むことができなにかにある。今年現地に5回出向いた。6月に長門市俵山の芋植え・蛍祭り(15名参加)、7月に長門市通のくじら祭り(48名参加)、9月、10月に長門市俵山の都市農山漁村交流プロジェクト(各13名、21名参加)、そして今回の体験視察である。

2009年1月6～7日に長崎県松浦市に都市農村交流の先進地研修(23名参加)に行った。本文はその報告である。なぜ松浦市に行くことになったか。これは偶然であるが、半年以上前に松浦市がNHKで紹介されていたのをたまたま見たからであった。松浦というと私にはアジ、サバ、イワシなどの青物の大量水揚げ地、火力発電所の存在を思い浮かべるが、最近は修学旅行でまちづくりを積極的に行っているのである。同じようなところには宇佐市安心院町があるが余りに有名すぎるのであえて意外な感のある松浦市に行くこととした。

朝8時に大学を出発し途中、佐賀県の呼子に寄った。ここはイカとともに日本三大朝市の1つとしても有名である。朝市は50～60軒というところか、ずいぶん寂しいものでとも日本三大朝市にあげられるものとは思われなかった。出店者に聞いてみると年々寂しくなっているとのことであった。農産物直売所などはどこも盛況と聞いているがこの地の朝市が不振なのはなぜだろうか。

呼子のイカはいまやブランド化し遠くからわざわざ足を運んで食べに行くほどである。しかし、この地のイカは有名になりすぎて当地でとれるイカでは足りないためか、下関市の角島で水揚げされるイカを活魚水槽を持ったトラックで買い付けにきている。

呼子で昼食をとり14時過ぎに松浦市に到着した。2時間半のセミナーを受けた。農家民泊を2003年に始めて以来着実に受入数が増え、2008年の受入数は91校、1万6千人、経済効果は1億6720万円にのぼる。来年は2万人に届くだろうと話されていた。対象者は中学、高校生で、中学校は関西、中国地方が多いが東京、横浜、新潟からも来ている。高校は関東地方が多いそうである。大学生は我々で2例目らしい。やり始めて6年目であり、話とビデオを交えてのセミナーは手馴れたものであった。学生から鋭い質問も投げかけられ充実したセミナーであった。

各農家へは2～3人単位で宿泊した。民泊先では家族の人と夕食を一緒に作らなくてはならない。そうしないと別の調理場が必要となるらしい。私は西戸先生と一緒に農家に泊まり、慣れない手つきでチャンポンづくりを手伝った。民泊先の方に聞くと、大学生は中高生とちがって大部分酒も飲めるし、気楽で話しやすいと大変喜ばれていた。

翌日は味覚体験であった。体験には90種類のメニュー、味覚体験だけでも25種類あるそうだが、今回はその中から押し寿司とそば打ちの2つのグループに分かれて味覚体験を行った。私は押し寿司づくり体験をした。9人の学生に対し中高年の女性6人が協力する。まず具のひとつであるごぼうを畑から引き抜くことから始まり、皮むき、刻み方、具のおき方など丁寧に教えていただいた。インストラクターの方も手馴れた調子であり、無事立派な押し寿司ができた。味も最高であった。

現地の方によれば、経済的な面だけでなく、子どもたちとの精神的交流を楽しみにしているものでつらいことがあってもできる



と言っておられた。学生諸君にも感想文を提出してもらったが、すべての学生の評価は、「貴重な体験で有意義であった。短い期間であったが濃い内容であった」とまとめることができる。ある学生が次のように記しているのが印象的であった。

「松浦で1泊2日過ごしてみて、“力強く生きる”というのは、……自然からエネルギーをもらうことを指しているのではないかと思った」

国際ワークショップ参加記



教授 木村健二

2008年12月に開催された、ソウル大学校日本研究所日本専門家ワークショップ「在日韓国・朝鮮人の生き残りをかけた経済活動」に参加し、報告をしたのでその模様を紹介する。

ワークショップは、日本側が龍谷大学経営学部の李洙任教授を代表とする科研グループ（在日韓国・朝鮮人の経済活動）による報告、それに対する韓国側のコメント、そして総合討論という形式で行われた。用語は日・韓・英語で、それらは同時通訳により日・韓国語に翻訳され翻訳機を通して聴衆に伝えられた。報告概要を示す報告集も配布され、わずか2日前に原稿を送付したにも拘わらず、すでに韓国語に訳されていたのには驚かされた。

日本側は、木村健二「在日朝鮮人古物商の成立と展開」、中村尚司龍谷大学研究フェロー「日本における朝鮮人軍人の戦後の暮らし」、田中宏龍谷大学教授「日本における『公職』と外国人」、朴一大阪市立大学教授「孫正義の企業家精神とエスニック・アイデンティティ」、ウィリス相愛大学教授・李洙任教授「研究成果報告」の順で報告した。韓国側のコメントは、韓国放送通信大学の丁振声教授、ソウル大学校研究員の辛珠柏氏、湖南大学校の金基太教授、ソウル大学校国際大学院の金頭哲教授が担当し、それぞれ多様な観点から、事前に我々の報告原稿を読み込んだうえで、たいへん厳しくかつ有意義な内容のものであった。とくに木村・朴・李の報告に対して、ニッチ（すき間産業）や3K産業（韓国では3D）からIT産業や大学教員・公務員にステップアップするプロセスとしていかなるものを想定しているかという質問は、研究会全体の課題でもあり、翌日の総括討論の話題ともなった。今のところ、在日一世・二世世代による資金蓄積とそれをもとにした教育投資（海外留学や大学・大学院進学）が大きく作用しているのではないかと結論づけている。

韓国における在日朝鮮人問題への関心は、2000年6月の韓日民族問題学会の発足を契機として大きく高まるが、それ以前よりの中国朝鮮族や東南アジアからの出稼ぎ労働者の増加によって、多民族国家化が急速に進んだこともあり、かなりメジャーな位置に押し上げられてきている。そうした状況から、我々の報告に対する関心も高く、また活発な討論につながったものと考えられる。

鯨資料室1周年記念シンポジウムを開催



2008年11月8日（土）、本学において「下関市立大学鯨資料室1周年記念シンポジウム－鯨資料収集のあり方と大学の役割・可能性を探る－」を開催した。

このシンポジウムは、鯨資料室が開設後1年を経過したことによる再度の本学鯨資料室の設置意義を大学内外に問い、本学から「鯨問題、鯨資料収集のあり方・問題点、大学の役割」についての問題提起と発信を行うとともに、我が国に鯨のみを対象とする学会がないことから、将来的に学会設立実現に向けての布石を打つことを目的として開催した。

会場には本学学生だけではなく、市内外から鯨に関心のある方が約130名集まった。今後このようなシンポジウムや研究会を定期的に開催し、第一段階として本学に鯨研究会を設置したいと考えている。また、「鯨資料室だより」やホームページを通じて、鯨に関する資料室の調査結果、収藏品データ等の情報発信を行っていききたいと考えている。

（プログラム）

・基調講演

中前 明（IWC日本政府代表）「今後のわが国の捕鯨」
大隅清治（（財）日本鯨類研究所顧問）「山口県における捕鯨概史と下関市立大学鯨資料室に期待すること」

・報告

岸本充弘（下関市立大学委嘱研究員）「下関の鯨産業遺産とその現状」

遠藤愛子（海洋政策研究財団研究員）「生鮮鯨肉の棲み分け流通－福岡市中央卸売市場と下関漁港地方卸売市場－」

・シンポジウム

テーマ「鯨資料収集のあり方と大学の役割・可能性を探る」

パネリスト：大隅清治、中前明、遠藤愛子、岸本充弘

コーディネーター：加藤秀弘（東京海洋大学教授）

学会主催学術講演会



2008年7月9日（水）に、下関市立大学学会主催で2008年度第1回学術講演会が開催された。江島潔下関市長を講師に、今後の市政について「下関の底力」と題して講演が行われた。

推薦入学・特別選抜・編入学試験を実施

2008年11月22日(土)、本学において2009年度推薦入学・帰国子女・社会人特別選抜、編入学試験を実施した。2009年度入試より、従来の地域推薦をA推薦・B推薦に分割した新たな制度を新設した。募集人員、志願者並びに合格者等の実数は、下表に示すとおりである

入試実施結果

学科	入試		定員	志願者	受験者	合格者	倍率	
経済学科	推薦入試	全国	31	79(104)	79(104)	32(33)	2.5(3.2)	
		地域	A(初年度)	33	6(50)	6(50)	6(33)	1.0
			B	39	39	27	1.4(1.5)	
	帰国子女	2	-	-	-	-	-	
	社会人	3	-	-	-	-	-	
	編入学	10	35(39)	30(36)	9(14)	3.3(2.6)		
国際商学科	推薦入試	全国	31	88(62)	88(62)	31(33)	2.8(1.9)	
		地域	A(初年度)	33	9(44)	9(44)	9(34)	1.0
			B	39	39	24	1.6(1.3)	
	帰国子女	2	1(3)	1(3)	1(2)	1.0(1.5)		
	社会人	3	0(1)	0(1)	0(0)	-(0)		
	編入学	10	37(22)	33(20)	13(9)	2.5(2.2)		

注:()内数字は2008年度入試実績数。

大学祭を終えて



47代大学祭実行委員会委員長 岩下直矢

昨年も、無事に何事もなく下関市立大学「第47回馬関祭」を終えることができました。これも日頃から馬関祭の運営にあたりご尽力頂いている関係者の皆様、学生の皆さん、地域の皆様のご理解とご協力があったからこそだと感じており、大学祭実行委員会一同、心から感謝したい。

今年のテーマの『smile』は馬関祭を通じて皆さんに笑顔になって頂きたい、今まで以上のものを提供したいという思いで決めた。馬関祭期間中、いろいろと不慣れなことが多くて上手くまとまらないこともあったが、皆さんの笑顔に大学祭実行委員会一同励まされた。なんとか、馬関祭を通じて皆さんに笑顔になってもらえることが実現できたのではないだろうか。しかし、大学祭の企画と運営をもう少し変えらるともっと皆さんに楽しんでいただけたのではないかと思う。このことを含め昨年度の反省点もきちんと次の馬関祭につなげ、より良いものができるよう尽くしていきたいと考えている。

私は、1年間大学祭実行委員会の委員長を務めてきたが、馬関祭本番が近づくにつれて各学年の皆さんに対して思ったことがある。それは、初めて馬関祭を体験する新入生には期待した以上に楽しい大学祭であると感じてほしいということであ

り、また2年生、3年生には各自サークルの模擬店を運営する責任者という立場なので、その責任ある気持ちを裏切らない大学祭にしたいということであり、そして最後の馬関祭を迎える四年生の先輩達には、今までの馬関祭の中で今年が一番楽しかったと思ってもらいたいということだ。

皆さんは去年の馬関祭をどう感じただろうか?良かった、悪かったと意見は様々だと思うが、次の代ではきっと今回の経験を活かしてよりよいものになっているので期待してほしい。

学生団体新役員紹介



学友会執行部

会 長 小野勇樹(国際商学科3年)
副 会 長 森田恭平(経済学科3年)
会 計 原田直樹(経済学科3年)



体育会

会 長 前田 徹(国際商学科3年)
副 会 長 中原祥吾(国際商学科3年)
書 記 長 伊藤嘉祐(国際商学科3年)



文化会

会 長 原田啓太郎(経済学科3年)
副 会 長 幸川真一(経済学科2年)
書 記 小野勇樹(国際商学科3年)



大学祭実行委員会

委 員 長 下野裕介(経済学科2年)
副委員長 田口久翁(経済学科2年)
副委員長 六尾香織(経済学科2年)

2008年体育系サークル 秋季大会成績

準硬式野球部

中国地区大会3位

ラグビー部

下関市ラグビーフットボールリーグ戦2位

硬式テニス部

関北インカレ男子ダブルス優勝:藤本・木島、女子ダブルス優勝:岩村・萩野、ベスト4:中野・高橋、女子シングルス優勝:岩村奈央、中国四国学生テニス選手権大会女子シングルスベスト16:岩村奈央、中国四国学生テニス新進トーナメント大会ダブルスベスト4、女子シングルスベスト8:岩村奈央

軟式テニス部

関北インカレ女子ダブルス準優勝:西川・井上、秋季山口県学生選手権大会団体女子優勝、女子ダブルス優勝:谷元・金子、3位:上杉・山本、男子ダブルス準優勝:大畑・斉藤

男子バスケットボール部

山口県学生バスケットボール大会Ⅱ部3位

女子バスケットボール部

中国学生バスケットボール選手権大会Ⅱ部4位
関北インカレ4位

男子バレーボール部

第68回中国大学バレーボールリーグ戦Ⅲ部5位

女子バレーボール部

山口県大学高専バレーボール大会3位

バドミントン部

山口県学生大会男子ダブルス3位：末廣・後藤、関北インカレ男子団体準優勝、女子団体準優勝、男子ダブルスベスト4：末廣・後藤、女子ダブルス準優勝：高橋・月谷、女子シングルス優勝：高橋慶子、ベスト4：奥山舞子

卓球部

第40回中国新人学生卓球選手権大会女子シングルスベスト8：道下知香

フットサル部

山口県フットサルリーグ5位、全日本フットサル選手権山口県大会下関地区優勝、2008下関フットサルリーグ2部優勝、山口クリスマスフットサルカップベスト8

柔道部

関北インカレ団体戦3位、山口県4大学対抗選手権大会団体戦優勝

空手道部

関北インカレ男子型優勝：石津諒太、男子組手個人戦ベスト4：石津諒太

紫電流空手道部

北摂空手道選手権大会ベスト8：村上輝

第4回コリアンスピーチ大会を開催



実行委員長 池永大智（国際商学科3年）

みなさんは「下関市立大学コリアンスピーチ大会」をご存知でしょうか。この大会は、5年前大学内で朝鮮語専攻の学生たちの有志が、下関市立大学で行われている英語・中国語のスピーチ大会に続けと立ち上げた大会である。第3回大会で、朝鮮語弁論大会からコリアンスピーチ大会と名称を変え、昨年12月17日に第4回大会を無事に開催することが出来た。

このコリアンスピーチ大会は、大会立ち上げから当日の運営まで実行委員の学生が中心となって行っている。例えば、大会パンフレットの作成や、スポンサー企業を探すといった仕事だ。今年も執行部を中心に、このような作業をして大会にこぎつけた。実行委員長の私は、主にスポンサー企業との交渉や市役所などへの名義後援の依頼などを担当した。授業の空き時間を利用してのこのような活動は、普段の大学生活では味わえない貴重な体験であった。

大会運営は実行委員会の学生が中心となっており、大会当日の出場者は県内外、中高生から一般の方まで合わせて32名、来場者が100名程度であった。また、新聞社4社とNHKの取材も受け、無事成功裡に終わった。

この大会は、出場者の方々をはじめ、実行委員会を手助けしてくださる国際交流センターの職員の方々、スポンサーとして大会の運営をサポートしてくださる企業の方々など多くの方のご協力によって成り立っている。まだ4回と短い歴史だが、先輩方から続いているこの大会を今後も継続して開催したいと思う。

中国文化交流会を開催



「中国語しゃべっちゃイナ」は去年の12月に、『食・見・交・群』という中国の冬至に合わせた餃子パーティを、地域の人々や他大学生との交流を目的として開催した。パーティでは、メンバーが来場者の方々と交流しながら水餃子の作り方を教えたり、中国のグッズやメンバー達の習字を紹介したりした。そのほかにもカンフーの指導や中国の歌のミニライブ、中国のクイズなどを披露した。たくさんの方に参加いただき、会場は大いに盛り上がった。特に水餃子は生地からすべて手作りだったので、大好評であった。

「中国語しゃべっちゃイナ」は去年の10月から、毎週木曜日の昼休みに厚生会館二階の談話室で活動している。活動を通じて中国語を学び、中国文化に深く触れることを目的としている。これからの目標としては、中国に関する地域のボランティア活動に積極的に参加したり、餃子パーティのような中国文化交流会を行ったり、中国語弁論大会にも挑戦したいと思っている。興味のある方は、ぜひ一度活動を見に来てほしい。

クリスマスパーティを開催



英会話を楽しむ会「JASH!!!」では、去る2008年12月12日にクリスマスパーティを開催した。日本人学生はもとより英語圏をはじめとする海外からの留学生や学外からのゲストも含め、30名以上が参加した。参加者同士お互いに自己紹介などした後、英語圏におけるクリスマスを体験するというコンセプトのもと、ゲームを楽しんだり、「赤鼻のトナカイ」といったクリスマスキャロルを歌ったりした。特に英単語を用いたビンゴゲームでは、レターキットやクリスマスグッズ等のプレゼントもあり英語のネイティブ・スピーカーから英語の初心者まで皆が盛り上がった。

JASHとして初めてのイベントであったが、多くの方にご参加いただき感謝している。JASHでは、毎週水曜日の昼休みに、厚生会館2階談話室にて英会話を楽しめる企画を行っている。普段英語に触れる機会の無い方も大歓迎なので、ぜひ参加してほしい。

「国内研修記」



教授 木村健二

慶應義塾大学での研修期間中は、内向きの論文作成やゼミ受講とともに、外向きに資料的な面で研究会参加や諸施設訪問を行ったので、ここでは後者について述べてみたい。

まず3月には、朝鮮出漁漁村調査の目的で熊本県の天草へ行ったが、そこでは天草アーカイブと称して、旧町役場の2階を利用し、合併した全市レベルの役場文書を収集整理し、あわせて新たに発生する文書群の保存を行っていくという、壮大なスケールの試みがなされていた。地域興しと連動した豊かな文化の創造の原点たろうとしたものといえる。

東京ではこれまで訪問したことがなかった国文学研究資料館を訪ねた。同館創設の際、文部省史料館を組み入れた経緯から、歴史関係の史資料調査・収集が業務の4分の1を占めているという。このたび立川市に移転し、新装なったばかりのところを訪問した。日本近世・近現代史史料を50万点収蔵し、全国にある史資料を網羅的に調査しており、何県にはどのような歴史資料があるかを調べるには最適であろう。アーカイブ学を専攻するソウル大学校からの若い研修生にも出会った。11月には同館主催の国際シンポジウムが立教大学で開催され、日韓台の研究者が報告し、とりわけ寺内正毅文書には意外と朝鮮関係資料が少なく、逆に日本本国に関する資料が多く、同人の関心のありどころを示しているという報告は興味深かった。

9月にはすでに第8回を数える旧植民地関係資料をめぐるワークショップが一橋大学で開催された。旧制高等商業学校所蔵の植民地関係資料の利用と保存に関する研究会である。山口大学は相変わらず活発で、1988年刊の『東亜関係蔵書目録』の校正版を提出された。12月には横浜のJICA・海外移住資料館での公開シンポジウム「日本の移民研究と史料」に参加した。とくに第二次大戦後の中南米移民関係資料が、担当した部署の改廃の結果、行き場を失って存亡の危機に瀕しているという報告には慄然とさせられた。

このように2008年は、国内研修の前後を含めて、アーカイブに関する機関や催しなどにふれる機会がたいへん多い年であった。それは、年金記録や戦争記録など事実関係を示す資料の保存・管理がいかに重要であるかという気運が大いに高まったことを反映しているといえる。研修期間にそうした場面に出会うことができた意義は大きかった。

「春学期国内研修紀」



准教授 中嶋 健

「20世紀初期わが国におけるスポーツ用品産業の成長過程に関する研究」をテーマとして、筑波大学大学院人間総合科学研究科にて6ヶ月間国内研修を行ってきた。

学部学生時代にサークル活動やその他で大暴れをしたキャンパスや宿舎は老朽化し、大学院時代にいっばしの研究者面をして、仲間と夜を徹して議論した研究室もかなり痛んでいた。ただ、現在同大学の教員をしている当時の仲間や、世話になったスポーツ史ゼミの大学院生との議論は、私の想像以上に新鮮で刺激的であった。また、8月に筑波山で行ったゼミの研究合宿では、

東京オリンピック招致委員会で働いているOBと激論し、オリンピック休戦運動について熱っぽく握手したことも、今は懐かしい。

研究テーマについては、数本の論文として概ねまとめることが出来た。1日中研究のことだけを考える時間が、これほどまでに有意義で充実するとは予想だにできなかった。ゼミの研究報告会に参加する日以外は、そのほとんどを筑波山が一望できる中央図書館や体育・芸術図書館の閲覧室で過ごし、時に東京へ史・資料収集に出かける毎日を6ヶ月間過ごした成果である。

つくば市には、多くの公園とそれを結ぶ歩行者専用道路のベダストリアンがある。これは、人が自転車とすれ違うことがないように市内の建物の2階を貫いている。休みの土日は、この通称ベデを散歩し、市の図書館や美術館を楽しみ、最近つくば市に多くなったと言われるインド人のクリケットを見て楽しんだ。

最後に、最近FDなるものが流行っているが、大学や学部を發展させるためには、教員と学生がゆとりを持って学び合える環境を整えることが第一であるということを痛感した。このような研修の機会を提供していただいた本学に感謝したい。

NHK全国大学放送コンテスト3位入賞

2008年12月20日、京都市で開催された第25回NHK全国大学放送コンテストに出場した本学「Come on! 大学JAM」(放送部)の花村枝里さん(国際商学科3年)がアナウンス部門で3位に入賞した。花村さんは「市民とフグの橋渡しを目指して」というタイトルで、10月に開設されたふく資料室を取り上げた。

放送コンテストに参加して



国際商学科3年 花村枝里

この大会は、大学生が主体となって開かれるコンテストで、全7部門で競われる。私はこの中のアナウンス部門に参加させて頂いた。今大会は私にとって学生生活最後の大会でもある。そこで、市大に新たに設置された「ふく資料室」の紹介についての原稿を書き、アナウンスする事にした。コンテストは12月に京都で行われたが、過去に出場したOBの方が部内にいらっしやなかったので、会場の雰囲気や大会のレベルなど分からない事もたくさん。しかし、先輩や他大学の友人の助けもあり、強豪校が集う中、3位という賞を頂けた。大会を終えて今、市大をアピールしたい気持ちと、助けてくれる知人がいたからこそその結果だと感じる事が出来る。最後になるが、この大会に出場するまで、たくさんの方々に協力して頂いたことに深く感謝したい。



就職活動記

就職体験記



経済学科 4年 中村達哉
(水戸地方検察庁)

【勉強方法について】

基本的に独学だったので市販の問題集で勉強した。間違えた箇所等をノートに書き込み、書き込んだ日から三日間はそれを読んで復習した。過去問が載っている問題集を繰り返し勉強すれば良いと思う。小論文は新聞などで知識を得ておき、一度は実際に書いて添削してもらおうと良いと思う。

【面接について】

集団討論では、新聞などで知識をつけ、自分の考えをまとめておくべきであった。個人面接では、自分のやりたいことと自分の強みをリンクさせてアピールすることが大事だと思う。私の場合は、「自分の強みは〇〇なので、〇〇という業務に活かしたい(〇〇という業務に興味を持った)」というように志望動機を書いた。

ほかには、履歴書に書いた内容については、どんな質問をされても答えられるようにしておいた方が良いと思う。また、自分の経験をもとに話をすることになるので、学生生活でしてきたこと、そこから学んだことをノートに書き込んでおくと面接試験の時に役立つと思う。志望動機や自己分析は筆記試験の前にも考えておくべきだと思う。

【国家公務員二種試験について】

国家公務員試験では、官庁訪問(実質的には面接試験)をする必要がある。一般的な流れとして、一次の筆記試験の合格発表→官庁訪問(希望の省庁に内定をもらう)→二次の面接試験→最終合格→内定先の省庁に採用、という流れである。このような制度のため、最終合格しても官庁訪問で内定をもらっていないければ、国家公務員になることはできない。上記にあるのは一般的な流れだが、最終合格の発表後にも官庁訪問ができる省庁もある。省庁によって官庁訪問の時期が異なるので、興味のある省庁はホームページなどで事前に確認しておくことが必要だ(説明会の日程も確認すること)。

就職活動をふり返って



経済学科 4年 藤下有貴
(全日本空輸株式会社)

就職活動を始める前まで、どこか私の心の中には「きっと何とかなるだろう。」という、甘い気持ちがあった。3年の夏ぐらいになると、就職に向けたガイダンスなども盛んになり、就職活動に向けて何か取り組まなければならないと思いつつも、何から手をつけたらいいのかわからず、時間だけが過ぎていった。

そんな私の考えを一変させたのが、3年の12月に参加した就職サイトによる合同企業説明会であった。周りの友達が行くからという軽い気持ちで参加したのだが、会場に着くと同時に、その雰囲気は圧倒されてしまった。あらゆる県から多くの学生が参加し、みんな必死になって、さまざまな企業の説明に耳を

傾けていた。そんな姿を目の当たりにすると、これまでの自分が情けなく思えてきた。これをきっかけに、気持ちを切り替えようと決心した。

私には、幼い頃から客室乗務員になりたいという夢があった。この夢だけは絶対に諦めたくなかったので、自分なりにある程度の準備をしてから選考に臨んだつもりだった。しかし、いざとなると、今まで積み重ねてきたことを十分に発揮することができず、第一志望の企業の面接においては、自分が何を答えたのかも覚えていないほど緊張してしまい、選考会場から出ると同時に涙が溢れてきたこともあった。そんな時、支えてくれたのは、家族や友人であった。周りの励ましがあつたからこそ乗り越える事ができ、その結果、第一志望の企業から内定をいただくことができた。この内定は私の力だけでなく、支えてくれた全ての方が私を形作って勝ち得たものだと思っている。

今から就職活動をしていく後輩たちに伝えたいこと、それは「ありのままの自分を表現する」ということである。一生懸命さは必ず面接官に伝わる。自分に自信を持って悔いのないよう、がんばってほしいと思う。

全てをプラスに



国際商学科 4年 中野孝政
(武田薬品工業株式会社)

私が就職活動以前に日頃から大切にしていたのは「何事も自分にとってマイナスになることは無い」という考え方である。つまり、考え方一つで何事も自分にとってプラスに変えることができるということだ。大学生になり、私は様々なことを体験してきた。アルバイト、サークル、旅行、勉強、友人と過ごす何でも無い日々。新しいことにも沢山出会ったが、特になんの変哲もない普通の大学生活だと思う。その中にはもちろん、ただただ時間を浪費しているだけの無駄な時間にも思える時もあった。しかし、そのような時間の中で私が考えていたのは前述のとおり、「この無駄な時間をいかにプラスに変えるか」であった。そのように考えることで私は毎日をとてても有意義に過ごせていたし、就職活動でも、自分は大学生活で特に大きなことはしてないからアピールすることが無いと悩むこともなかった。これは皆さんにも同じことが言えるのではないかと思う。

就職活動での面接とは、自分をいかに飾らずさらけ出すことが出来るかである。無理に自分を良く見せようと思っても、面接官にはすぐに見破られてしまう。正直私も最初は資格やインターンシップなど、ちょっと自慢できそうなことだけ話していたが、結局大事なのは如何に自分に自信を持って自分の考えを理解してもらえるかによるのだということが自然と分かった。どの就活本にも書いてあるようなことかもしれないが、実際これが真実だ。

就職活動は社会に出る事前練習のようなものだと思う。この時期の様々な業界の様々な年齢層の人達との出会いはきっと自分を大きく成長させてくれるし、今後社会に出ていく上での自分の糧となると思う。みなさんも自分以外の人は皆先生だと思い、色々なことを吸収してほしい。そしてその全てをプラスに変えてもらいたい。考え方一つで人は大きく変わることができる。

■下関市立大学後援会援助規程による表彰

(平成20年3月・平成20年9月)

【各種大会(体育・文化)出場報奨】

- * 第35回山口県少林寺拳法大会
組演武 一般初段の部 第1位 永江圭介、益富圭太
- * 山口県体育大会少林寺拳法競技
組演武 一般初段の部 第1位 永江圭介、益富圭太
- * 少林寺拳法創始60周年第五回中国地区学生大会
組演武 女子有段の部 第2位 石田小春、泉田彩圭
- * 第54回北九州・下関地区大学体育大会(秋季)
硬式庭球部 第1位
- * 平成19年度中国四国学生テニス新進トーナメント大会
女子 シングルス 第1位 岩村奈央
- * 平成19年度秋季北九州・下関地区学生テニス選手権大会
男子シングルス 第1位 柳谷彰人
男子シングルス 第2位 田原雄太
男子ダブルス 第2位 折山政雄、入江隼斗
女子シングルス 第1位 岩村奈央
- * 平成19年度山口県学生秋季バドミントン大会
女子シングルス 第1位 高橋慶子
女子ダブルス 第1位 高橋慶子、月谷ひとみ
- * 第36回山口県少林寺拳法大会
組演武 一般男子初段の部 最優秀賞 藤瀬天魚
- * 平成20年度春季北九州・下関地区学生テニス選手権大会
女子シングルス 第1位 岩村奈央
女子ダブルス 第1位 岩村奈央、矢野里沙
- * 第33回中国学生バドミントン選手権大会
女子A級シングルス 第1位 高橋慶子
混合ダブルス 第1位 高橋慶子(他大学生)
- * 第41回山口県会長杯争奪バスケットボール大会
男子バスケットボール部 男子の部 第1位

【各種資格取得報奨】

国際商学科

人見 慎太郎	実用英語技能検定試験	準1級
小副川 敦子	実用英語技能検定試験	準1級
大澤 知子	実用英語技能検定試験	準1級
中川 和也	実用英語技能検定試験	準1級
	国際連合公用語英語検定試験B級	
	TOEFL (IBT)	79点以上
小山 淑子	TOEIC	750点以上
塩見 美千代	TOEIC	750点以上
奥田 ゆかり	TOEIC	750点以上
日永田 由美子	TOEIC	750点以上
武田 典子	中国語検定試験	2級
近藤 亜由美	中国語検定試験	2級
元 兼利彦	中国語検定試験	2級
植田 藍子	韓国語能力試験	4級
永島 大地	韓国語能力試験	4級
望月 将男	韓国語能力試験	4級
中谷 哲久	簿記検定試験(II商)	1級

■行事記録 (2008年12月~2009年2月)

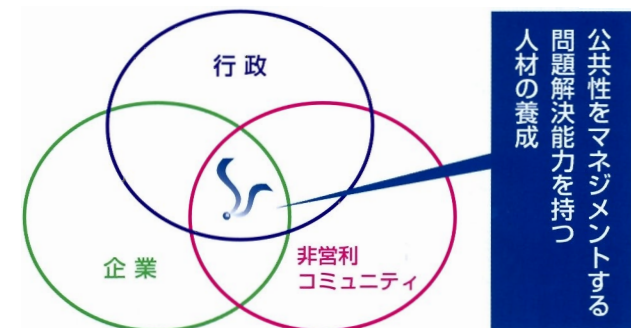
- 12月1日(月) 推薦・特別選抜・編入学合格発表
- 12月17日(水) 第4回コリアンスピーチ大会
- 12月25日(木) 冬季休業(~1/7)
1月17日(土) センター試験(~1/18)
- 2月3日(火) みらいフォーラム
- 2月4日(水) 秋学期定期試験(~2/18)
- 2月21日(土) 現代GP研修会
卒業論文合同報告会
- 2月22日(日) 現代GPフォーラム
- 2月25日(水) 一般選抜試験(前期)下関・大阪

平成23年度「公共マネジメント学科」設立予定

下関市立大学では、『みんなのために…』をテーマに、行政、企業・NPO活動、地域づくりといった公共的な諸活動のあり方を、マネジメント(効果的な経営管理)の視点から学ぶ新学科-公共マネジメント学科の設立を予定している。

今日では、行政(公務員)においては、定められた手順を踏まえてつづつそれを越えて公共的な観点から諸問題に取り組むことが求められ、民間企業においては、企業の存続と利益の追求のためにも社会的責任と社会貢献への認識が必要とされ、学校・病院・福祉施設・NPOなどにおいては、その活動自体が公共性を絶えず意識しながら進められなければならない。公共マネジメント学科では、このように社会の様々な位置で、公共的な課題に取り組むことができる人を送り出すことをめざす。

地方分権、道州制の模索される時代の中で、地域に根ざし、地域社会の経済社会的問題への貢献を期待される公立大学の経済学部として、経済学、経営学などの社会科学全般の知識をもとに、①企業の経営能力を身につけた行政マンを目指す人、②公共空間と調和的な企業活動の実践のために、公共的な運営手法や調整能力を身につけた企業人を目指す人、③非営利組織(NPO)に活躍の場を求め人、④地域づくりのために、公共的な運営手法や調整能力を身につけた地域コーディネーターを目指す人、を育てる。



■緊急特別対策を実施します

下関市立大学では、平成21年4月に入学を希望する高校生等が、米国サブプライムローンに端を発した金融経済危機による経済的困窮により進学を断念することのないよう、入学金の納付猶予及び分納の特別措置を緊急対策として実施する。

- 【猶予・分納期間】 猶予：最大2年間
分納：12回(最長1年)

対象者及び申請手続きの詳細については、下記問い合わせ先へ

【問い合わせ先】

総務グループ経理班 Tel.083-252-0288